横浜市立 汐見台小学校　学校評価報告書　（ 令和 4 ～ 6 年度 ）

重点取組分野	令和 4 年度 具体的取組	令和 4 年度 自己評価結果	総括
授業改善	①肋道立てて考える力や友達と伝え合う力を高め活用し、考えを深められる子どもの育成をめざす。主体的に情報を収集・整理・分析し活用するなど問題の解決に向け探究し続ける子どもの育成をめざす。② 子どもたちの思考の流れが明確になるように板書を工夫する。子どもたちに見通しをもたせたり、思考を促したりする授業展開を心がける。話型を提示するなどし思考や表現をする時に活用できるようにする。タブレット端末用授業支援アプリやデジタルコンテンツ、学校図書館の効果的な活用により、主体的に情報の収集や活用ができるようにする。	「友達と学び合いながら自分の考えを深められる子どもの育成」というテーマを設定し、校内重点研究で、話し合い・スピーチ・読書会など、言語活動の充実を図ったことにより、児童の考えを伝える力の向上や考えを深める姿につなげることができた。また、思考の流れが明確になるように板書を工夫したり、動画等を活用して話型を提示したりすることにより、子どもたちが課題の解決に向けて見通しをもって探求し続けることにつなげることができた。	A
人権教育	①人権教育を通して、自分らしさについて考え、自分の良さを発揮しようとする心を育てる。②異学年交流や個別支援級理解を進め、自他の違いに気づき、相手を思いやる態度を育てる。規範意識を大切にすることを誰もが安心して過ごせる学校風土づくりにつなげる。毎月の学年研で人権教育に取り組める単元について共有し、日々の学習の中で確実に人権教育を行う。	クラスでの取り組みを校内に掲示することにより可視化され、また、その振り返りを一人ひとりが行うことによって自分事として捉えることができた。それにより、それぞれのクラスでの取り組みの理解やお互いの理解につながった。校内研修やセンター的機能を活用することで、職員の特別支援や人権教育に対する意識を高め、職員が「誰もが安心して過ごせる学校風土づくり」に取り組みやすくなった。	B
体力向上	①日常的に継続できる課題を通して、児童の心身の健康と保持増進に励む。感染症対策を講じつつ、児童が相互に学び合うことができるように、グループ活動を通して友達と関わりを大切にし、体を動かす楽しさやよさを感じ、自らの健康につなげられるようにする。②制約のある状況下でも、運動の楽しさや喜びを実感することができるように時間・場所・材を工夫して運動機会を設定し、持続可能な活動を継続して行う。	限られた場所で何ができるかを工夫して運動機会を確保することができていた。日常的な活動を通して児童が体を動かす楽しさやよさを感じていた。体育科学習では、学び合うための手立てについて、今後も検証しながらグループ活動がより充実する指導となるように努めていく。	B
地域連携	①探求心をもって考え方の異なる他者とかかわったり、地域に関する学習をしたりする中で、「主体的にかかわろうとする姿勢」「良さを発見する力」「多様性を尊重しようとする態度」「問いを見いだす力」の育成を行う。②福祉教育や生活科・社会科・総合的な学習の時間等地域を材とした学習などにおいて目的をもって多様な人とかかわり、振り返りを通してかかわる楽しさを実感したり、よりよいかかわりを構築する方法を考えたりする経験を積み重ねる。	地域の方が講師となったチャレンジ学習では、様々な体験を主体的に楽しむ児童の姿が見られた。生活科や総合的な学習の時間を核に、地域の方とのかかわりを通して、「地域への親しみ」をもつ児童が増えた。一方、地域学習では自ら問いを見いだしたり、多様性を尊重する児童の育成には課題が残った。	**B**
いじめへの対応	いじめの未然防止、早期発見・事案対処の三段階において、いじめ防止対策委員会が中核となり情報の収集や記録、対応に関する役割分担をし、調査を行う判断や対応を行う。また。この委員会は児童支援委員会と連携し、いじめ早期発見のための情報交換、子どもの実態把握に努める。また、年間計画を作成し、PDCAサイクルでの検証を行う。	学年研と児童指導部会、児童指導会議の連携によって、児童に対する理解が深まったり、全体化されたりする仕組みを作ってきた。また、いじめの早期発見、早期解決を目指して対応することを全教職員で共通理解したことによって、迅速な対応をすることができ、保護者アンケートでも多くの方に評価していただいている。2回行ったYPアセスメントにより、児童や学級の変化を読み取り、児童理解に生かしていくことができた。また具体的な方策を学年で話し合いながら立てたことにより、学年内での児童理解がより深まり、学年全体で課題に対応することができた。	B
人材育成・組織運営(働き方)	一人ひとりの専門性が発揮できる場作り、経験年数の少ない職員も様々な役割に自覚と責任、実行できる校内組織体制の整備、協力体制の構築を図るために、管理職の方針の基、主幹教諭や関係部署の主任が中心となってリーダーシップを発揮し、人材育成を行いながら活気ある組織運営を行う。	学年主任会や主幹会、メンター研などの所属する組織において、よりよい学校づくりのために議論を重ね、役割に自覚と責任をもって業務遂行することができた。来年度は、所属する様々な組織の枠を超えた人材育成をさらに発展させていきたい。	B
地域学校協働活動	学校運営に関する基本方針について承認を得るとともに、環境・福祉・防災等に関わるテーマをもとに協議を行い、課題解決を図る。10月の地域学校協働本部設置後、コロナ禍でも児童の読書環境が充実するために協力できることを考え、関係職員と連携して実施する。	地域学校協働活動本部を設置したことで、保護者や地域との連携・協働関係のより一層の構築が図られ、地域とともにある学校づくりに進展があった。特に、学校教育ボランティアを活用した読書活動の充実が図られ、児童の豊かな心を育成した。仮設校舎での学校生活の様子を共有し、児童の健全育成に関わる意見交換を通して、児童の安全意識が向上する指導へとつなげた。	A

ブロック内評価後の気付き	児童生徒交流日及び公開授業では、児童が主体的に学習に取り組み、考え方の異なる他者と話し合いながら学びを高めている姿が見られた。協議会において小中学校9年間でコミュニケーション能力を育成するために授業を始め、様々な行事、地域との連携を図るよう努めている。今後も、小学校と中学校の学びのつながりを意識してブロックで育成する資質・能力である「コミュニケーション能力」を教育課程全体で育成していくことができるようカリキュラムマネジメントに取り組み、教育活動の改善に努めていきたい。
学校関係者評価	現在行われている学校運営は、児童に寄り添った学校運営が行われていて大変評価している。具体的には、チャレンジ月間の取組等、地域と連携した教育活動を推進して探求心・問題解決力を育成していること、校舎の建替えで不十分な教育環境下でも体力向上に関わる活動を推進して児童の運動機会を確保に努めていること、学校教育ボランティアを活用した読書活動を充実させて児童の豊かな心を育成していることなどがあげられる。教職員も笑顔で挨拶する姿が見られるなど、児童・保護者・地域と良好な関係を構築しながら温かな学校風土を醸成している。今後は、登下校時における安全意識の向上等、児童の健全育成に関わる指導の充実を期待する。
中期取組目標振り返り	特別支援教育の体制整備や児童理解に関する研修の充実により、人権尊重の精神を基盤とした教育環境が向上している。また、授業改善では、目指す子どもの姿に沿った授業研究を進めることができた。子どもたちが目的意識をもって粘り強く学ぶ姿勢が向上し、学校評価保護者アンケートでは、子どもの学びの深まりに関して強く肯定する回答が上昇した。地域に目を向けた学習でも、環境や福祉について調べ行動する探求学習に進展が見られる。学校運営協議会では今期の経営方針をはじめ、育てたい子どもの姿や地域連携のあり方などについて、教育活動の報告を交えながら具体的に説明し、理解を得ることができた。

重点取組分野	令和 5 年度 具体的取組	令和 5 年度 自己評価結果	総括
授業改善			
人権教育			
体力向上			
地域連携			
いじめへの対応	b5		
人材育成・組織運営(働き方)	b6		
地域学校協働活動	b7		
	b8		
	b9		
	b10		

ブロック内評価後の気付き	
学校関係者評価	
中期取組目標振り返り	

重点取組分野	令和 6 年度 具体的取組	令和 6 年度 自己評価結果	総括
授業改善	c1		
人権教育	c2		
体力向上	c3		
地域連携	c4		
いじめへの対応	c5		
人材育成・組織運営(働き方)	c6		
地域学校協働活動	c7		
	c8		
	c9		
	c10		

ブロック内評価後の気付き	
学校関係者評価	
中期取組目標振り返り	